

図書館だより

NO. 127 2008年 9月号
(2008年9月1日発行)

はつかいち市民図書館
電話(0829)20-0333
廿日市市下平良1-11-1

ホームページ <http://www.hiroshima-hatsukaichi-lib.jp/>

中学生の職場体験報告!

8月21・22・26・27日の4日間、中学生4名が図書館の仕事を体験しました。ときどき図書館を利用しているとのことでしたが、実際に「窓口の仕事」・「予約資料の電話連絡」・「読み聞かせ」などさまざまな仕事を体験することで、“働く”ことの楽しさや大変さを肌で感じ取ったようです。

～4日間の感想～

初めて知ったことなどがたくさんあり、驚きの連続でした。仕事をするとは簡単なことではなく、実際に体験してみると図書館の仕事はやりがいのある仕事だと思ふようになりました。

4日間、さまざまな仕事をする事ができたため、本の置いてある位置なども以前より知ることができました。今まで以上に図書館を利用したいと思います。

最後の日の昼休憩に、私たち4人で「楽しかった。まだしたい」と話しました。絵本の読み聞かせやカウンターの仕事、本の配架など、とても楽しかったです。

最後の日に、保育園の子どもたちに「読み聞かせ」をしたことが一番心に残りました。一生懸命練習して、真剣に聞いてもらったのでうれしかったです。また、「読み聞かせ」の勉強会を開いてほしいです。

今月の展示

<さくらびあ展示>『ミュージカルを楽しもう』

10月にさくらびあで開催される「サウンドオブミュージック」にちなんでミュージカルに関係する本を展示します。

<中央展示>『団塊の世代』

団塊の世代とは、作家堺屋太一さんが1976年に発表した小説『団塊の世代』で昭和22年～24年に生まれた人を指す言葉です。蔵書の中から団塊の世代向けの本を幅広く集めて展示しています。

<児童展示>『わたしのおじいちゃん・ぼくのおばあちゃん』

みんな大好きなおじいちゃん、おばあちゃん。夏休みには一緒にたくさん遊べたかな?今月は、優しくて物知りなおじいちゃんおばあちゃんの本をたくさん集めました。

<テーマ展示>『敬老の日』

9月15日の敬老の日になんで、いつまでも元気で心豊かに生きるための、おすすめ本を展示しています。

みなさんからの「私のすすめる本」も引き続き募集しています。
ご応募お待ちしております。

読書会で読んだ本

一般書

『アサッテの人』

諏訪哲史/著 F/ス
2007年 講談社

アサッテの人は、甥である小説家が叔父を小説にしようとして書き始める。その叔父は、幼い頃から吃音があった。吃音は、意思にかかわらずに言葉をひとつの定型とすることをある意味困難にする。吃音を克服したあとにも、「ポンパ」や「タポンテュー」などの意味不明な言葉“アサッテ”を発するようになる。叔父は最愛の妻をなくしたあと、心の自由の表れであったはずの“アサッテ”が“作為に満ちたアサッテ”に代わっていくことに生きずらさを感じるようになる。

この作品は、作者を叔父に投影させているような気がする。小説を書くことは、作為で無く、心の自由のままに書きたいと願う作者の姿をこの作品から垣間見ることができ。 読書会会員 松尾 国昭

読書会は毎月第3水曜日

(10:00~12:00)です。詳しくは窓口でお問い合わせください。

8月のテーマ展示本「戦争と平和」の感想

児童書

『小型武器よさらば』

柳瀬房子/文 難民を助ける会/監修
319/ヤ 2004年 小学館

本の表紙は、小さな子どもが銃を持っていました……。

子どもたちが、銃を持って戦うなんて考えられなかった。すごく悲しくなりました。私は、世界が平和になることをとても願っています。

未来の子どもたちに戦争なんて教えたくありません。

今、自分ができることは、大学に受かってたくさん勉強することです。そして、海外のボランティアに協力したいと思います。

平和になってほしい……。

今月の新着 大人の本

図書館には1カ月に約700冊の新刊が入ります。その一部を紹介します。

☆☆ 図書館のホームページで新着図書の一覧を見ることができます ☆☆

- 『蝶々は誰からの手紙』丸谷才一/著 マガジンハウス 019/マ
- 『草食系男子の恋愛学』森岡正博/著 メディアファクトリー 152.1/モ
- 『国旗・国歌の世界地図』21世紀研究会/編 文芸春秋 S288.9/コ
- 『北京を見る読む集める』森田憲司/著 大修館書店 292.2/モ
- 『あたらしい戦略の教科書』酒井讓/著 ディスカヴァー21 336.1/サ
- 『「まだ結婚しないの？」に答える理論武装』伊田広行/著 光文社 S367.4/イ
- 『学校の裏側』大山真善美/著 コールサック社 371.4/オ
- 『胎内記憶～命の起源にトラウマが潜んでいる～』池川明/著 角川書店 S495.6/イ
- 『吾々は猫である』飯窪敏彦/著 日本経済新聞社 S645.6/イ
- 『音大進学・就職塾』茂木大輔/著 音楽之友社 760.7/モ
- 『私の青春文学紀行』松本侑子/著 新潮社 904/マ
- 『60歳からの楽しい俳句入門』鴫田智哉/著 有楽出版社 911.3/ト
- 『シェイクスピアの戦争・平和学』小田島雅志/著 新日本出版社 932/シ
- 『夏のくじら』大崎梢/著 文芸春秋 F/オ
- 『デビューしちゃった』南野トマト/著 学習研究社 F/ミ

新刊

ことものほん

『チュンタのあしあと』

おくはらゆめ あかね書房 E/オ

ぼくはチュンタ、ウメコさんの屋根のすきまに住んでいるよ。ウメコさんは庭を掃いた後、米粒をまいていく。ぼくがその米粒を食べていると、障子のかけからこっそり見てるんだ。おばあさんとすずめのほのぼのとした交流を、明るいついでで描く。

『一ずっと受けたかったーお天気のお授業』

池田洋人著 東京堂出版 451/1

雨ってどんな形をしているの？北極と南極はどちらが寒い？など天気の「どうして？」を可愛いイラストとひとことポイントでやさしく解説しています。雪玉2つは日本の雪だるま、欧米では雪玉3つが重なったものが一般的というような楽しいお話コーナーも。子どもの目線で書かれた天気の本です。

『いぬうえくんがわすれたこと』

きたやまようこ・作 あかね書房 913/キ

朝ごはんを作るのはぼくの係で、感想を言うのはいぬうえくん。あと片付けはぼくで、いぬうえくんは外をながめながら考える係。そんなふたりの暮らしをユーモラスに描いた物語「いぬうえくんとくまざわくん」シリーズ最新刊で、第5巻目です。

『おしゃべりどうぶつえん』

あべまいこ・文 高畠那生・絵 絵本館 E/タ

ゾウのアサコのうんちを片付け、動物たちのえさを運びながらライオンのレイラに話かける。私はおとうさんが飼育係をしているので、動物園の休みの日に特別にお手伝いをする。私と動物たちの会話が、女の子の温かい視点で綴られた日記風の絵本。

『神さまの森、伊勢』

今森光彦 小学館 651/1

伊勢の森は、伊勢神宮が誕生して2千年もの間、神さまの森として守られてきた照葉樹の森です。その森に樹齢500年のヒノキが立っています。どうして針葉樹があるのでしょうか。特別許可で入山した写真家が、神さまの木ヒノキを大切に育ててきた伊勢の人々の願いを、美しい写真とともに語った本。

『ゴールデン・キッズ 上・下』

高橋陽一著 ゴマブックス 913/タ

結成以来全敗の最弱チーム「ゴールデンキッズ」は解散を迫られていた。キャプテン北川剛流は練習すれば必ずうまくなるという信念から、一勝すると宣言する。そんな時、車いすの女性優子と出逢い…。『キャプテン翼』の作者が贈る少年サッカー物語。

ミニブックトーク

『赤毛のアン』出版100周年！！

カナダでの出版から今年で100年。『赤毛のアン』と聞いて懐かしいと思われる方、まだ読んでいないという方も、まずは①の完訳シリーズから読んでみませんか。各巻末には「プリンスエドワード島の大きさは愛媛県くらい」など物語の背景となる逸話もたくさんあり、物語と一緒に楽しめます。

②ではアンを生み出したL・M・モンゴメリーの波乱に満ちた生涯を回想することができます。

③にはアンでの最初の翻訳者村岡花子さんが原書を手にし、戦時中も翻訳し続けた姿が孫の恵理さんによって語られています。モンゴメリーの孫ケイト・バトラーさんに「アンの魅力をうまく伝えてくれた」と評された村岡さんの生涯はどんなものだったのでしょうか。

さてアンのお話の舞台といえばプリンスエドワード島。④では島に魅了された写真家吉村和敏さんが長期滞在し、島民の目線で撮影した四季折々の自然豊かな風景が物語の世界を広げてくれます。

アンが生きた時代の生活習慣・衣食住なども興味深いところです。⑤ではアンが着たいと憧れたパフスリーブや楽しみにしていた日曜学校のピクニックなどを写真や図版で見て楽しむことができます。

①『完訳赤毛のアンシリーズ』1～10巻 L・M・モンゴメリー 作 掛川恭子 訳 講談社 933/㍑

②『赤毛のアンのお島』奥田実紀 著 文溪堂 930/㍑

③『アンのおゆりかご 村岡花子の生涯』村岡恵理 著 マガジンハウス 910.2/㍑（一般）

④『赤毛のアンに出会う島』嶋田宏一 文・構成 吉村和敏 写真 295.1/㍑（ヤングアダルト）

⑤『「赤毛のアン」の生活事典』テリー神川 著 講談社 930.2/㍑（児童研究）

ブックスタート講演会報告

8月26日(火)あいプラザ多目的ホールで、ブックスタート講演会を開催しました。夏休み最後の忙しい時期にもかかわらず、34名の方にご参加いただきました。

講師のNPOブックスタート協会の斎藤かおりさんからは、イギリスでブックスタートがどのような思いから始まり、それが日本に伝わって、日本の各自治体でどのように取り組まれているか、豊富な事例を写真とともに、わかりやすくご説明いただきました。

講座終了後のアンケートによると大半の参加者が、ブックスタートボランティアをしてみたいという感想でした。今後は、ブックスタートボランティアを対象とした学習会を来年1月～2月にかけて実施する予定です。



参加者からの感想

- ・絵本が読み聞かせるだけではなく、母→赤ちゃんのように、人と人とを結びつけるツールの役割をもっていることが分かりました。ブックスタートが地域においても重要な役割をもつということ、それが絵本を介して行えるということがとても素敵だと思います。
- ・ブックスタートという言葉をつい最近知っただけだったので、その内容の詳しい話を今日お聞きすることができて大変良かった。この活動に何らかの形で関わっていきたくて強く思った。

8月7日に「おりがみ・きりがみで遊ぼう！」を開催しました。

1・2年生20名が、おりがみで“ハート”やきりがみで“かいじゅう”などの作品を作りました。また、楽しい講座を企画していきたいと思います。



9月の図書館カレンダー

◎ちいさいこのためのおはなし会

- 【対象】乳幼児
- 【時間】1回目 11時～
2回目 11時30分～
- ※整理券を相談窓口で配布します

☆おはなし会

- 【対象】幼児～小学校低学年
- 【時間】11時～

■ストーリーテリングのおはなし会

- 【対象】幼児～大人まで
- 【時間】11時～

場所はいずれも図書館会議室です

日	月	火	水	木	金	土
	1 休	2 休	3	4	5 ◎	6
7	8 休	9	10	11	12	13 ☆
14	15	16 休	17	18	19 ◎	20 ■
21	22 休	23	24	25	26	27 ☆
28	29 休	30 休				